

飯南

い
い
な
ん

議会報

- 02 9月定例会報告
可決された主な議案
提出されたその他の案件 陳情
一般会計補正予算
- 03 一般質問
- 09 討論 採決の結果
決算審査特別委員会
- 10 常任委員会報告
議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 12 明日を拓く

第51号
平成29年10月20日



一般質問

9月定例会



瀧尻 行雄 議員

平成29年

9月定例会終わる

9月5日から15日までの11日間で開催

監査委員による平成28年度決算報告があった。平成18年度決算で26・9%だった実質公債費比率は9・8%となり、合併当時は危機的状態といわれていたが、繰り上げ償還などの財政努力によって著しく改善された。

未収金はやや減少したものの5200万円余、指定管理による観光施設は11施設、管理料が1億2900万円あり、改善を求める意見が付されている。

デマンド型乗合タクシーの運行に、志々及び赤名地区が加えられ、これで全町に波及することになった。さらに定期券が新設され、利便性の向上が図られた。

社会資本総合整備交付金により、町道の整備や橋の補修、通学路の改良、公営住宅の整備等をおこなっているが、今年度の国からの交付率は要求額の58%となっており、大幅な計画の変更が必要となっている。特に、住民の生活に密着した生活道路への交付率は35%と極めて低く影響が心配される。

また、住宅整備事業の交付率は50%となっており、今年度中の完成は不可能な状況となった。

可決された主な議案

■ 条例関係

飯南町地域の振興を促進するための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例の制定など3件

■ 補正予算

平成29年度飯南町一般会計補正予算(第3号)など8件

■ 諸議案

平成29年度中央監視装置設備工事請負契約の締結など3件

提出されたその他の案件

■ 認定

平成28年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

■ 報告

健全化判断比率及び資金不足比率の報告

陳情

中井谷ため池の改修及び早期着手の要望について(陳情)

【陳情者】

飯南町花栗72番地2

・とんぼら門宮農組合 代表理事 難波 明石

・中井谷ため池受益者 代表 熊谷 利夫

【審査委員会】 教育経済常任委員会
【審査結果】 継続審査

Q 福祉施設の

存続は

本町は、福祉、医療に精力的に取り組んできた。

しかし、福祉施設の維持管理が困難となりつつある。将来を考えると、施設の老朽化対策や機能の更新など長期的視点が必要だ。介護職員の不足も深刻な影を落としている。

この問題を解決するため、行政が改革の第一歩を踏み出す時が来ていると思うが、町長の考えを問う。



町内の福祉施設

A 福祉施設協議会と

協議

町長 山崎 英樹

本町では早くから民間の力で福祉に対応いただいている。

近年では小規模多機能型居宅介護というサービスも加わっており、他市町に比べ恵まれている。このような中、施設入所を必要とされる高齢者は増加している。

従事者の不足によるサービスの縮小をせざるを得ない施設があることは承知している。人材確保のための各種制度に加え、本年飯南町人材確保センターを設置した。

今後、飯南町福祉施設協議会と施設の老朽化や人材確保対策を協議する。

Q 高齢化が進む本町の

農業・農地の行方は

農水省は、予算要求を増大させ競争力強化プログラムに基づき、構造改革を進めようとしている。

本町として、農地の大区画化、農業公社設置など、強い農業、農村整備を確実にする時期が来ていると思うが、町長の考えは。



オペレーター不足に悩む農業

A 営農体系を充実

町長 山崎 英樹

平成30年度に廃止が決まっている米の直接支払い交付金の財源がどう活用されるのか注目している。

本町の農業戦略として、指摘の内容に賛同する。

本年7月には飯南町農業支援センターを立ち上げ、組織作りを進めている。その流れの中で、若者が年間を通して活動できる、核となる新たな組織が生まれることを望んでいる。

農地については、集約、管理しやすい環境整備を進める考えだ。また、1年間を通しての生産など、営農体系を充実させ、持続、発展する農村の形成に努力したい。

【平成29年度 一般会計補正予算 9028万円減額】

社会資本整備交付金の減額、障がい者福祉費臨時管理費・琴引スキ一場外臨時管理費の増額など

各 会 計	補正予算額	予算総額
一般会計	-9028万円	74億3837万円
特別会計	国民健康保険事業	7億1279万円
	後期高齢者医療事業	1億8286万円
	病院事業	13億4240万円
	介護保険サービス事業	3399万円

一般質問

9月定例会



内藤 眞一議員

Q 頓原ライスセンターの今後は

花栗にある頓原ライスセンターの撤去が話題になっていますが、町としてどのように対応していくのか。



頓原ライスセンター

A 正式には聞いていない

町長 山崎 英樹

現在のところ、JAから報告も協議も受けていない。また、飯南町カントリーエレベーターを整備する際に、頓原ライスセンターの目標処理数量は、整備後も従来どおりとされており、廃止の考えは聞いていない。
先日の集落協同組合長会でそのような話があったということからJAへ確認したところ、これから内部で検討を始めるということなので、本町の農家が安心して米づくりができる体制に向けて検討していただきたいと思っている。



Q 防災告知と庁舎内訓練

A 改善の必要性を感じている

町長 山崎 英樹

8月18日に中四国地方において、北朝鮮のミサイルに関して「Jアラート」の情報伝達訓練が実施されたが、本町の防災無線放送においては「音が小さい」等の苦情があるが、認識しているか。その場合、どういう行動をとるのか周知できているか。
また、8月5日に山林火災の放送があったが、サイレンも鳴らないし、内容もほとんど伝わらなかった。機器の操作等の庁舎内の訓練ができてくるのか。



本町では、防災行政無線の屋外スピーカー及びケーブルテレビの告知放送で行ったが、いずれも正常に作動したことを確認した。
ただ、屋外スピーカーの音量が小さいとの意見は聞いており、まず、音量を大きくすることの検討を始めた。結果をみてスピーカーの増設も検討したい。
いざという時の行動は、国の指針をケーブルテレビの文字放送で周知している。
火災については、日直者が操作を誤り、サイレンが鳴らないなどの不備があった。
今後は適正に緊急放送が行われるように、機器の操作について再度確認する。なお、消防団については、消防署から各分団の班長以上に一斉メールが送信される事になっている。

一般質問

9月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 国保の一本化に望むこと

A 負担の公平化を図り、国・県へ要望

町長 山崎 英樹

(1)介護保険には境界層措置があるが、国保にはない。新たな減免措置の創設が必要。
(2)保険料の応益割は逆進性を高め、低所得者に重い負担を強いる。特に子どもの均等割は不足すべき(少子化対策にもなる)ではないか。
(3)保険証の取り上げ、すなわち、資格証や短期証の発行は中止すること。被保険者に有利な基準の創設。一部負担金の減免基準は、県下の自治体で大きくばらついている。一部負担金の減免基準を設けることが必要ではないか。
一部負担金の減免は、国民健康保険条例施行規則15条に記載はあるものの、減免要件などが見えないがどうなっているのか。
(4)国保は社会保障の制度である。国の責任で予算を確保させるとともに、県にも独自の財源投入を求めるべきではないか。

各市町村で色々な減免制度の基準を設けている。より適用範囲を広げるよう検討し、統一する。
所得のない子どもの保険料負担は確かに考えるべき点はある。一定基準を超える子どもがいる世帯には、国から補助で調整される。県内にどう配分するか検討している。
制度維持のためのルールを決めて、それに沿ってやって行く、被保険者間における負担の公平化を図ろうという考え方である。
運営状況、様々な考え方を元に、国・県に財政支援を要望していく。
※【境界層措置】
介護保険の境界層制度とは、簡単に言えば、生活保護を申請して認められなかった利用者の介護施設への各種支払いを減額する制度。

Q 聞こえない防災無線、改善を

A 今後の検討課題

町長 山崎 英樹

6月に竣工した本町の防災無線には、「聞こえない」「生活に支障が出た」などの声が寄せられる。屋外拡声器のみでは全町民への告知は無理という結論を得た。先にも提案したが、個別受信機設置が必要と考えるがどうか。
今年も防災訓練が予定されているが、要援護者を実際に避難場所まで誘導する訓練は行われていない。いざというとき慌てないよう、実地訓練が必要である。

防災無線は、聞こえにくいなどの指摘がある。
また、個別受信機は、国にも動きがあるようなので、今後検討する。
行政の責任放棄ではないが、要援護の方については、自助・共助の活動も必要になる。行政としてもしっかり対応していく。



防災無線屋外拡声スピーカー

一般質問

9月定例会



門 眞一郎 議員

Q 畜産振興にどう取り組むのか

宮城全国和牛能力共進会へ出場出来なかった。和牛農家の皆さんはこの5年の間努力を重ね、和牛改良に努めて来られた。競い合っていた奥出雲町の状況を把握しきれていなかったことが敗因の一つと思われ、残念だ。

畜産の状況は高齢化により飼養農家は減少の一途である。これを打開するための後継者の育成が急務となっている。高齢化が進む中、5年後の鹿児島全共には後継者組織である飯南GYU・牛会の皆さんは絶頂期を迎えるが、これをどう育てるか本町の和牛振興の力ギと考える。

5年後を目指し、直ちに行動を起こすべきであるが、どう対策をとるのか。

A 目標を掲げ、次は必ず勝つ

町長 山崎英樹

全国和牛能力共進会での成績が枝肉価格に反映される。



9月1日の町共進会

Q 飯南ブランド、強化が必要

本町は売れる米づくり事業としてエコロジームの普及に努め、毎年うまい米コンテストを開催しながら食味向上を図り、地道な営業を行ってきた。

ブランド化は出口対策として不可欠な戦略で、今後も維持していかなければならないと思うが、どう考えるか。

A しまねブランドも検討する

町長 山崎英樹

J Aは、コメの需要は品質ではなく、ブランドによる差が大きいと言っている。

従来より「飯南町丸ごとブランド化」を基本と考え、消費者に飯南の米なら食べてみたいと思っただけのまちづくりを進めてきた。大しめ縄やサイクリングなど、本町自体の魅力を高める活動を展開している。

「いーちゃん」をプリントした段ボールでパブリカとトマトの出荷を始めた。一層産地化・ブランド化を進めなければならない。

しかし、激化する産地間競争や、より大きな市場の獲得のため、しまねブランドも考える必要があると思っっている。



飯南カントリーエレベーター

U・Iターンのきっかけづくり

Q 三十路式の有効活用を

若者定住促進につながるU・Iターンのきっかけづくりについて、質問と提案をする。

第2次飯南町総合振興計画の中に、基本施策の定住の促進として、U・Iターンの取り組みについての説明がある。また、飯南町総合戦略の中にも政策としてU・Iターンが取り上げられている。それらの中には、U・Iターンのきっかけづくりとして、新規事業の「三十路式（みそじしき）」を行うとある。大変有意義な事業であると期待するが、「三十路式」の参加人数と参加率、またこれをきっかけとしてU・Iターンされた方の人数を問う。

南広域連合の若手職員で、人口の社会増に結び付く提案を検討する中で出た意見だ。

今年で3回目である。平成27年度は、対象者84名・参加者42名で50%。平成28年度は、対象者98名・参加者33名で34%。本年度は、対象者70名・参加者32名の46%になっている。

「三十路式」が直接のきっかけで、Uターンのをしたという事は確認できていないが、式には定住担当が出かけ、本町の定住対策・子育て支援策などを説明している。

A 対策などを説明

町長 山崎英樹

昨年度における本町のU・Iターンは、過去最高の53名であった。

「三十路式」は平成26年に、雲南市・奥出雲町・飯南町と雲



本年8月15日の「三十路式」

Q 二十五歳の会でさらなる効果を

「成人式」から「三十路式」までの10年間には、若い人たちにとって人生の転換期とも言える機会が訪れるのではないかと思う。

厚生労働省の調査では、大学を卒業した新卒社員の内、3割の人が3年以内に仕事を辞めていて、この10年間3割という数字は概ね続いていると報告されている。年頃になれば25歳前後になるのではないかと思われる。このタイミングで、例えば、「二十五歳の会」などの交流会を開き、定住促進の情報などを提供すれば、若い人の背中をもう一押しするのではないか。



「三十路式」で再会を楽しむ

A もう少し現状で進めたい

町長 山崎英樹

「三十路式」については、若い人でいろいろ検討をしている。

その一つに、「成人式」の時に10年後の自分へということ、タイムカプセルを作り、「三十路式」でそれを開くというアイデアも出ている。

25歳の節目でということであるが、「三十路式」もまだ始めて3年目でもあり、「成人式」と連携してのアイデアも出ているので、もう少し今の形で進めさせて頂きたい。

提案についてはいろいろと検討して参りたい。

一般質問

9月定例会



高橋 英次 議員

一般質問

9月定例会



早樋 徹雄 議員

Q 中山間地域総合整備事業の見直しは

飯石地区県営中山間地域総合整備事業の進捗状況と今後の見直しについて問う。
この事業は総事業費18億円、平成27年度から32年度の6カ年計画で、本年度3年目を迎える。

町道の9路線がこの農道整備事業で整備するよう計画されており、また、暗渠排水、用水路整備事業などは受益者負担が1割であることから、関係者の期待も大きなものがある。

現状は、国の予算配分もあると思うが、事業が思うように進んでいないと感じる。
平成32年度までの6カ年計画ではあるが、予算の状況から期間の延長はあるものとなっているが、見直しはどうか。

A 事業の推進に努力

町長 山崎 英樹

事業期間から見た進捗率は今年度末で半分となるが、事業費から見ると総事業費18億円に対し6億円となる見込み(進捗率33%)。内訳は、営農飲雑用水施設が74%、農道整備が15%。今の予算配分が続くと、完成は4年程ずれ込む恐れがある。

この状況を打破するために、いろいろな機会をとらえ、積極的に国・県に対し予算確保の要望してきた。今後も、島根県と協働し、事業の推進に努力する。



カントリーエレベーターに続く道

Q 行政組織機構の見直しを

平成17年には業務の円滑な移行のため10課3室だったものを、平成18年4月には7課体制にした。現在は福祉事務所を含め8課1室である。

今後さらに行政改革を推進し、効率的な行政運営をしていくためには、合併後職員も大幅に少なくなっており、課の統廃合など、組織機構の見直しが必要と思うがどうか。

A 状況を見ながら検討

町長 山崎 英樹

現在の組織は、平成27年の行政改革に関する答申をベースにしており、答申には、「行政運営の見直し」、「住民と行政の協働システムの確立」、「地域主権に対応した行政システムの構築」を柱としている。

指摘の見直しは今直ぐにとは考えていない。状況を見ながら検討する。



庁舎内風景

DEBATE

討論

平成29年度飯南町一般会計補正予算(第2号)

琴引スキー場第2リフト減速機の経年劣化による修理。費用は1000万円。

赤来中学校の灯油地下タンクを地上式に置き換える。費用は286万円。

反対討論 伊藤 好晴 議員

「減速ギア」を特注するのみで、「減速機」を新品にするという検討はなかった。他の施設も寿命がくる。壊れるたびに高額負担を強いられるのではないかと。

来年の業務委託料から5000万円を差し引くことになっているが、きちんとメンテナンスできるのか疑問だ。

赤来中学校地下灯油タンクは、平成25年に高精度油面計が取り付けられ、10年間寿命が延長された。地上タンクに換えることを提案したが、そのまま設置された。設置にかかる予算額もタンク



紅葉の森林セラピーロード

の価格を考えれば釈然としない。

賛成討論 門 眞一郎 議員

修繕費は、業務委託契約に基づくもの。指定管理契約が本年度末までとなっており、やむを得ずこのような予算措置をしたものだ。

灯油タンクの設置費は、施工段階で適切な管理がなされ処理されるので、賛成だ。

平成29年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)

国民健康保険料を引き上げ、予算を1045万円余増額する。

反対討論 伊藤 好晴 議員

国民健康保険料の引き上げは酷だ。
国庫負担金を引き上げさせる運動を、町民と共に起こすべきだ。町は一般会計を投入するなどして、負担軽減の措置を図るべきだ。

賛成討論 熊谷 兼樹 議員

制度改革に対し、国庫負担が後退しないよう、町と議会が一緒になって国に要望しなければならぬが、柔軟に対応できる基金を確保しておくことは重要だ。また、28年度は高額共同事業負担金の2分の1を一般会計から繰り入れ、基金の取り崩しを300万円弱に圧縮している。

[9月定例会]

全14議案のうち、反対があった議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	伊藤好晴	瀧尻行雄	門眞一郎	熊谷兼樹	内藤眞一	早樋徹雄	高橋英次	景山登美男	安部 丘
平成29年度飯南町一般会計補正予算(第2号)	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○

○賛成議員 ●反対議員

決算審査特別委員会を設置

平成28年度飯南町各会計の歳入歳出決算を審査するため、決算審査特別委員会を設置しました。

委員長 内藤 眞一 副委員長 景山登美男

委員 伊藤 好晴 委員 瀧尻 行雄 委員 高橋 英次 委員 安部 丘



赤名小学校の大規模改修完了視察

教育経済 常任委員会

委員長 内藤 眞一

平成29年度 飯南町一般会計補正予算(第2号)

財産(飯南町リースハウス資材)の取得

上赤名地内へ「リースハウス」を整備。Iターンの新規就農者がリースを受ける。無理のない生産及び冬季管理や強風対策に留意するよう求めた。

道路橋梁新設改良費 2億1376万円の減額

平成29年度社会資本整備総合交付金の交付率は58%。特に、道路改良事業、住宅整備事業への交付率が低く、事業の遅れが顕著である。

新衣掛団地(仮称)は交付率50%のため、予算の範囲内で施工し、残りは次年度に行う。

委員から住宅の熱源を一本化し、基本料金の低減を求める意見があった。

中学校共通臨時管理費 286万円

赤来中学校の地下灯油タンクを廃止し、管理者が不要な地上式1,000ℓ未満のタンクを設置するもの。

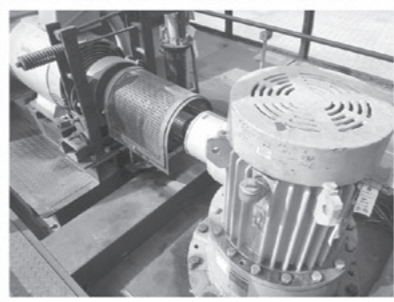
この地下タンクには、平成25年に130万円余で高精度油面計を設置していた経緯がある。

琴引スキー場外臨時管理費 1123万円

第2リフト減速ギアの経年劣化による修理。修理費は1,000万円。指定管理者飯南トータルサポートに、毎年管理委託料1,400万円が支払われている。この中から今年500万円の修繕費を負担させる(残りは来年度)ことに疑問を呈する意見があった。

この状態で管理者の応募があるかを心配する意見があった。

また、5月9日の強風により、琴引スキー場のレストハウス屋根がはがれた。修理は防水材料を塗布する。修理費は623万円。



リフト減速機



レストハウス

議会全員協議会の議題

平成29年8月1日(火)

- ① 地方版図柄入りナンバープレート導入に向けた取り組みについて
- ② 自動運転サービス実証実験について
- ③ デマンド(予約)型乗合タクシーの運行説明

平成29年9月15日(金)

- ① 防災訓練について
- ② 源泉所得事務調査における税務署指摘事項について
- ③ 知事要望について
- ④ 総合振興計画等評価委員会の意見について
- ⑤ 「出雲」ナンバープレート導入に向けたアンケートについて
- ⑥ ふるさと納税返礼品連携協定について
- ⑦ H30年度国民健康保険制度の見直し(国保都道府県化)について
- ⑧ 徘徊者捜索応援システムの導入について
- ⑨ 赤名トンネルの事故について

総務厚生 常任委員会

委員長 瀧尻 行雄



頓原ラムネ温泉湯元の現状視察

平成29年度 飯南町一般会計補正予算(第2号)

志々支所経常管理費 22万円

自動ドアと換気扇の修繕費用。

町営バス運行経常管理費 712万円

公共交通機関利用促進事業 275万円

新しい公共交通体系に要する運行経費。

新しいシステムに町民に混乱がないように周知徹底するよう求めた。

高齢者生活福祉センター臨時管理費 40万円

冬季宿泊施設の利用が増加すると考えられる。今後対応等前向きに考慮されたい。

頓原庁舎臨時管理費 250万円

旧頓原庁舎解体にかかる電柱撤去費用。

住民生活に支障のないよう工事を進めるよう求めた。

障がい者介護・訓練給付費 57万円

障がい者共同生活援助利用者助成金の新設。障がい者グループホームの施設利用者の経済的負担を1年間軽減するものなど。

子ども・子育て支援対策事業 5万円

全額県補助金により子育て講座を行うもので、子ども達を大切に育む思いで賛同した。

健康増進施設「頓原ラムネ銀泉」経常管理費 64万円

源泉小屋老朽化のための建て替えとヒートポンプ熱交換器の取り換え。冬までに施工したいとのことで、委員会で現地確認をした。

飯南町デマンド型タクシーの運行に関する条例の改正

デマンドタクシーの運賃の支払い方法を、現金と回数乗車券に、定期乗車券を加える。

町内券1ヵ月分は大人9,000円、高校生4,500円、中学生以下無料。町外券1ヵ月分は大人15,000円、高校生7,500円、中学生以下無料である。

議会活動報告 [7月~9月]

- 7月
- 5日 県会議員一期生意見交換会
 - 8日 飯南町消防団操法大会
 - 13日 徳島県上山町視察
 - 16日 雲南地区消防操法大会
 - 27日 雲南地域幹線道路意見交換会
 - 30日 県消防操法大会

- 8月
- 1日 臨時議会・議会全員協議会
 - 15日 成人式
 - 17日 川本波多線改修促進期成同盟会
 - 19日 雲南クリーンセンター竣工式
 - 21日 議会広報研修会
 - 22日 議会運営委員会(飯南町議会基本条例)
 - 28日 雲南広域連合議会
 - 29日 一期議員研修会

- 9月
- 1日 議会運営委員会: 9月定例会の提出議案、日程外の協議
秋季畜産共進会
 - 5日 9月定例議会: 本会議、町長提出議案の説明、質疑、委員会付託
 - 8日 : 本会議、一般質問
 - 11日 : 委員会審査
 - 12日 : 委員会審査
 - 13日 : 委員会審査
 - 14日 : 委員会審査、予算特別委員会審査
 - 15日 9月定例議会: 本会議、委員長報告(質疑)、討論、採決・議会全員協議会
 - 19日 議会広報編集委員会: 編集作業
 - 25日 議会広報編集委員会: 編集作業
 - 26日 教育経済常任委員会(閉会中の調査)
 - 29日 全国広報研修委員会

新人議員の展望を聞く

このたびの選挙で当選した新人議員2人に抱負を聞きました。



安部 丘 議員

安部 丘 議員 議会に対する思い

初めての議会を終え、あらためて議会は非常に神聖なものであると感じました。責任を持って意見するため、さまざまな経験や住民の皆さんの声を伺って、自分の中できちんと整理し、議論できるように備えていきたい。

まちの未来を どう考えているのか

飯南町総合戦略は、私の理念に近いと感じています。一歩はなれて観ていて、こうしたらいいと思っていたことがきちんとした絵になっています。これを実行する場面においては、住民の皆さんから十分な理解を得られていないところや、細部において詰めが不十分なところもあるでしょう。そういったところで潤滑油となり、町の将来が開けていく一助になれば良いと思っています。

景山 登美男 議員

どのような議員を目指すのか

行政で38年間お世話になり、住民の皆さんのために仕事をさせてもらってきました。この中で、行政と住民の間の繋がっていない部分を埋めていく役割

を果たしたいと思い、議員を志しました。

行政の立場であったときの反省が立候補の理由であった部分もありますし、行政は常にその行動を正当化する立場にあるものですが、住民の声をしっかりと届けて改善に結び付けて行きたいと思っています。



景山 登美男 議員

町の未来をどう考えているか

選挙のとき掲げた公約は、健康やかで安心して暮らせるまちづくりです。

元気でなくてはいけない、町内にある病院を生かして、誰もが元気で暮らせること、防災や保育所、教育の問題など、みんなが心穏やかに暮らせるような町になったらいいと思っています。

今月の表紙写真



「よし勝てるよ!!」とパートナーに襷を飛ばしているかのように見える一瞬をパチリ。赤名小学校ではこの日、運動会が雨で順延して月曜日の開催となったにも関わらず、応援席は児童の家族や親族で大きな賑わいをみせていました。町内の各小学校でも同じような光景がみられ、暮らしの中で「子どもは地域の宝」だという私達の思いが、親子の絆、家の絆、地域の絆となって飯南の子が育まれていくのだと思います。

編集後記

7月の改選を受け、新しい議会構成が決まりました。議会広報編集委員会も新たな顔ぶれでのスタートです。引き続きご愛読いただけますように、読みやすい紙面づくりや、「なるほどそういうことか」とご理解をいただける内容に心がけて参ります。

9月議会においては、6人の議員が一般質問を行いました。中でも防災行政無線については、2人の議員が問題を提起しました。台風、地震、火災、大雨、大雪などの災害、そして今はミサイルの飛来など、私達の生活を脅かす事例は益々増え、町民のみな様方への正確な情報の伝達は、何よりも重要性を増してきます。みんなが日々情報に関心を寄せ、危険から身を守るということを意識していなければなりません。

季節の変わり目になり、夏の疲れが出てきます。みな様お身体に気を付けてお過ごしください。

議会広報編集委員長 高橋 英次